

# エディトリアル

地域医療振興協会シミュレーションセンター センター長 高橋 仁

地域医療における診療の質を担保するためには、国際的な標準化された知識や技術を習得するoff the job trainingの充実が不可欠であろう。「月刊地域医学」では2011年に「標準化教育のすすめ」を特集したが、その後心肺蘇生のガイドラインや各シミュレーションコースの内容変更があり、最新の内容を読者の皆様に届けたいと思い、このたび「改めて標準化教育のすすめ」の特集を企画した。

本特集では8年前に掲載できなかった他のコースをなるべく数多く取り入れた。具体的にはPTLS、PUSHとPSA、チームSTEPPS<sup>®</sup>、SHEARを取り上げ、PTLSを本多英喜先生、PUSHとPSAを本間洋輔先生、チームSTEPPS<sup>®</sup>を種田憲一郎先生、SHEARを志賀 隆先生にご執筆いただいた。前回掲載したALSO<sup>®</sup>、NCPR、PALSでは改定点を中心にご執筆いただき、ALSO<sup>®</sup>とBLSOを伊藤雄二先生、NCPRを細野茂春先生、PALSとPEARSを宮本朋幸先生にお願いした。いずれの稿も各コースを代表する先生方である。

そしてシミュレーション教育の指導者養成コースについて志賀 隆先生に、効果的コミュニケーションを小出智一先生に、デブリーフィングを池山貴也先生にお願いした。

また2012年に地域医療振興協会が設置したシミュレーションセンターについて、現在の活動状況を筆者が紹介している。

今回のシミュレーション教育の特集が、読者の皆様にシミュレーション教育への開かれた扉となり、ひいては地域医療の診療の質の向上へとつながることを期待したい。

※本文では商標登録マーク<sup>®</sup>は省略させていただいている。